

患者さんを見ていて、以下のように感じることはありませんか？

「昼と夜が逆転している」

「言葉がスムーズに出てこない」

「聞いたことにうまく答えられない」

「よくわからないことを言っている」

「忘れっぽくなった」

「性格が変わってしまった」

「もしかして、幻覚がみえている？」

「身の置き所がない様子で、じっとしてられない」

「入院していることを忘れて帰ると言っている」

「点滴が入っていることを忘れて、抜いてしまった」

もしかしたら、患者さんに「せん妄」という症状が出ているのかもしれない。

茨城県立中央病院

緩和ケアセンター

緩和ケア病棟

〒309-1793

茨城県笠間市鯉淵 6528

T E L 0296-78-5420

F A X 0296-78-5421

「せん妄」について



茨城県立中央病院

緩和ケアセンター

緩和ケア病棟

「せん妄」とは？

「からだの状態が悪いために、脳も正常にはたらくことができなくなり、そのためにおこる精神症状」をいいます。

「せん妄」は、脳じたいが小さくなってしまふ「認知症」とは異なります。

「せん妄」の症状

「せん妄」の特徴的な症状は、以下のようなものです。

・ 注意力・判断力の低下

例) ぼうっとしている、言葉が出るのに時間がかる、など

・ 認知機能の低下

例) 忘れっぽい、幻覚がみえる、興奮・混乱する話しの辻褄が合わない、場所が分からない、服を脱いでしまう、点滴を抜いてしまう、など

・ 短期間で出現し、波がある

例) 昨日までは普通だったのに、今日から急に様子が変わってしまった、夜は混乱していたけれど昼間は普通にしている、など

患者さんご自身は、混乱しているあいだのことを忘れてしまっており、自覚症状がないことが多いです。

そのため、患者さんの側にいるひとが早めに「せん妄」に気づき、適切に治療できることが大切です。

「昼夜逆転している」「すこし怒りっぽくなったようだ」など、ちょっとした変化でも、気になる点がありましたら、医療者へご相談ください。

「せん妄」の原因

「せん妄」には下図のような原因があります。

	例
頭の中の腫瘍	脳転移、髄膜播種（脳を包む膜への転移）
癌の進行	悪液質（がんの進行によっておこる栄養障害）、炎症
臓器不全	肝不全や腎不全（からだが老廃物を処理できず、たまってしまふ） 呼吸不全（肺が悪く、必要な酸素が取り込めない）
細菌感染症	肺炎、尿路感染、腫瘍への細菌感染など
薬剤性	くすりを急に増減したとき

その他に、環境の変化、つらい症状・不快感、不安などのストレスも「せん妄」を悪くする要因です。

からだが重篤な状態であるほど、「せん妄」の症状は強くなってしまふことが多いです。

良くなる・治療できる病気が原因で「せん妄」が起こっている場合は、病気が治るとともに「せん妄」の症状も良くなっていく可能性があります。

なぜ「せん妄」の治療が必要か

患者さんは、混乱しているあいだのことを忘れていても、

・ 眠れなかった、悪夢をみていた

・ 自分が自分でなくなったみたいだ

・ あたまがうまくはたらかない、おかしくなったしまったなど、とても不快に感じておられることが多いです。

また、混乱してしまうことで、必要な治療を中断せざるを得なくなったり、暴れて怪我をしまったりするなど、患者さんの身体にとっても、マイナスが多い症状なのです。

「せん妄」の治療

患者さんのつらさに応じて、向精神薬（混乱・興奮をおさえるくすり）を使います。

くすりの副作用として、眠気があります。

「せん妄」の症状は夕方から夜にかけて強くなることが多いので、夕方や夜にくすりを使います。

夜にくすり眠って脳を休めることで、昼間にしっかり起きられて混乱も抑えられることが治療目標です。

飲み薬や点滴など、状態に合わせてくすりを選びます。からだの状態が重篤なときには、「せん妄」を完全に良くするのは難しいこともあります。

ご家族の役割

不安や寂しさをやわらげることも、「せん妄」の大切な治療です。ときに、ご家族が側にいてくださることが薬より有効なこともあります。

患者さんが安心できるように、言うことを否定せず、いつもとおなじように接してあげてください。

患者さんに怒られてしまい、接しかたが分からないとき、患者さんをみていてつらい時には、遠慮なくスタッフへ声をかけて下さい。

注意していくこと

せん妄が出るということは、からだの状態が変わったというサインでもあります。

この先の病状の変化に備えて、注意して見守り、つらいときにはすぐ対応できるよう、スタッフ一同お手伝いさせていただきます。